

令和2年度 特別支援教育セミナー

7月29日(金)、本校食堂に於いて特別支援教育セミナーが開催されました。今年度は感染症拡大防止に向けた取り組みのため、規模を縮小しての実施となりました。発表された3本の事例はどれもわかりやすく、これからの日々の実践に役立つものばかりで、とても充実したセミナーとなりました。

●「通常学級児童の困り感に寄り添う支援について」

○陸前高田市立高田小学校 教諭 伊藤けいこ

学習の定着の難しさ等、様々なつまづきをもつ児童の困り感を、教師間で共有し、学校以外の関わりも確認した。教師間と関係機関による見立てシートを活用することにより役割分担を明確にし、支援の手立てを工夫したことで児童の自己効力感を高めることができた実践の発表。



アンケートより

- ・早速、見立てシートを使って個別の支援について吟味してみたい。
- ・職員間の役割分担と連携の大切さを実感した。
- ・教師間で困り感を共有することはとても大切だと思った。

●「特別支援学校における性に関する指導について」

○岩手県立気仙光陵支援学校 養護教諭 藤平世渚

本校の小学部、中学部、高等部の発達段階に応じた指導計画と、それぞれの実践事例を紹介。「これだけは覚えてほしい」という重点項目を決めて伝え、児童生徒の行動変容につなげることや、「楽しい」「分かった」と思えることを大切にする。そして、また勉強したいと思う気持ちをもち続けるような指導を心がける。指導をとおして、障がいがあってもなくても、社会の一員としてともに生きる自覚を高めることができるように支えていきたいと発表。



アンケートより

- ・年間計画が整えてあり、児童に合わせての指導・計画が参考になった。
- ・男女の違いや二次性徴だけでなく普段の中の指導も大切だと感じた。
- ・具体的にどのように行い、どこまで踏み込んでいいのかわからなかったのが参考になった。

●「本校における進路指導」

○岩手県立気仙光陵支援学校 進路指導主事 折戸秀和

支援学校卒業後の就労について、働くことに向き合う姿勢が大切である。そして、離職の理由は雇用主側よりも、本人の気持ちの理由がほとんどである。最後は生徒自身の「気」を育てることが重要である。そのため小・中・高それぞれの段階にあったキャリア教育の必要性についてを発表。



アンケートより

- ・就職の現実を知ることができ、有意義だった。
- ・小学校からの仕事（学習）への意欲向上「自分から」を今からつけさせたい力だと思った。
- ・社会人として自立してくために必要な力など納得することばかりだった。

アンケートより（全体をとおして）

- ・他の先生方やSCと連携していくことの大切さを学ぶことができた。
- ・3つの事例発表はどれも関心が高く、参加した。本校の教育に役立つものだった。
- ・どのような実践が行われているかを知る機会が少ないため大変参考になった。楽しみ、楽しませながら、やる気や根気を育てていきたい。
- ・支援はどの生徒にとっても必要なことだと改めて感じた。

感染症拡大を考慮し、今年度はグループワークを行わず、全体会での開催となりましたが、3本それぞれに内容の濃いお話で、研修を深めることができました。来年度は、できる限りグループでの話し合いも取り入れ、さらに充実したセミナーにしていきたいと考えております。

参加して下さった皆様、ありがとうございました。